

平成25年度補正予算「汚染水処理対策技術検証事業」に係る補助事業者の公募

事業実施要件と申請・採択について

改訂1 2014.04.10

2014年4月8日

MRI 株式会社三菱総合研究所
廃炉・汚染水対策事業事務局

目次

事業実施要件と事業毎の採点基準	3
1. 海水浄化技術検証事業	
2. 土壌中放射性物質捕集技術検証事業	
3. 汚染水貯蔵タンク除染技術検証事業	
4. 無人ボーリング技術検証事業	
5. 加点の計算方法	
応募手順	21
1. 応募書類の様式	
2. 応募書類の提出	
審査方法と審査基準	29
1. 審査方法	
2. 審査基準	

事業実施要件と事業毎の採点基準

1. 海水浄化技術検証事業
2. 土壌中放射性物質捕集技術検証事業
3. 汚染水貯蔵タンク除染技術検証事業
4. 無人ボーリング技術検証事業
5. 加点の計算方法

1. 海水浄化技術検証事業

● 検証実施内容

海水中における、主として放射性セシウムや、放射性ストロンチウム等の浄化技術の除去性能を検証するため、実証試験を実施すること。

● 事業実施要件

【基本要件】

① 浄化システムの基本的な考え方

海水を汲み上げず^(注)に放射性物質の浄化が可能な技術であることが記載されていること。

② 目標除去性能

セシウム134の濃度が約5～15Bq/L、セシウム137の濃度が約10～35Bq/L、全β濃度が100～1,000Bq/Lである海水(詳細は参考情報を確認してください)を前提として、目標除去性能が記載されていること。

③ メンテナンスに関する考え方

メンテナンス頻度を低下させる工夫が記載されていること。

④ 二次廃棄物に関する考え方

二次廃棄物の発生抑制に関する考え方が記載されていること。

(注)海水中の放射性物質除去については、放射性物質の吸着や放射性物質の凝集・沈殿などの方式が考えられる。

1. 海水浄化技術検証事業(続き)

● 事業実施要件(続き)

【加点項目】

① 除去効率

放射性物質の除去効率について、性能の高い提案について、加点します。

② 除去性能の持続性

除去性能の持続性に関する考え方が記載されている提案については、その性能が良い(除去性能の持続性が長い)提案について、加点します。

③ 二次廃棄物の発生抑制

二次廃棄物の発生量抑制について、その性能が良い(発生量が少ない)提案について、加点します。

④ 実験データの提示

基本条件又は加点項目について、実験データによりその実現性を示せる提案について、加点します。また、提示するデータが学会や学術誌等の査読を受けた形で公表されていれば、追加の加点をします。また、当該実験データの提示により、検証に必要な期間の短縮が見込まれる提案内容について、追加の加点をします。

● 達成目標

契約期間内に、提案された基本条件及び加点項目に該当する項目の技術成立性、妥当性が検証できることを達成目標とします。

1. 海水浄化技術検証事業(続き)

● 採点基準

【基本条件】

合計 20点

① 浄化システムの基本的な考え方

【5点】

- ✓海水を汲み上げない方法で放射性物質の浄化を行う技術であることが記載されているか
- ✓放射性物質を除去する仕組みについて、具体的な記載があるか

② 目標除去性能

【5点】

- ✓元素毎の除去目標が示されているか

③ メンテナンスに関する考え方

【5点】

- ✓メンテナンス頻度を低下させる工夫が具体的に記載されているか
- ✓一定の条件下(潮の干潮条件、波の高さ、放射性物質の濃度等)における除去効果の持続期間が記載されているか
- ✓持続期間を裏付ける仕組みが具体的に記載されているか
- ✓メンテナンス方法や必要な人員数等について、具体的に記載されているか

④ 二次廃棄物に関する考え方

【5点】

- ✓二次廃棄物抑制の仕組みについて、具体的に記載されているか
- ✓二次廃棄物の回収方法が具体的に記載されているか
- ✓二次廃棄物の処理方法が具体的に記載されているか
- ✓二次廃棄物の保管方法が具体的に記載されているか(方法、容易性)

1. 海水浄化技術検証事業(続き)

● 採点基準(続き)

【加点項目】

技術点合計 40点

① 除去効率

【10点】

- ✓提案された技術の除去効率(除去に使用する素材当たりの除去量、時間当たりの除去量)が高いか
- ✓除去する放射性元素(放射能を持つ元素)の数が多いか

【7点】

【3点】

② 除去効果の持続性

【8点】

- ✓除去効果の持続期間が長い
- ✓メンテナンスに必要な人員数が少ない
- ✓メンテナンス方法が容易

【4点】

【2点】

【2点】

③ 二次廃棄物の発生抑制

【8点】

- ✓二次廃棄物の発生量が少ない
- ✓二次廃棄物の減容化が容易
- ✓二次廃棄物の回収方法が容易(作業員の被ばくが少ない)

【4点】

【2点】

【2点】

④ 実験データの提示

【14点】

- ✓比較サンプル(コントロールサンプル)の設定、データの統計的処理・評価等がなされた実験データであるか
- ✓提示するデータが学会や学術誌等の査読を受けた形で公表されているか
- ✓効果を裏付けるため、様々な角度から実験が行われ、データの分析がなされているか
- ✓示されたデータに基づき、検証の期間の短縮が見込まれるか

【4点】

【4点】

【2点】

【4点】

2. 土壌中放射性物質捕集技術検証事業

● 検証実施内容

一定以上の塩化物イオン濃度下(200ppm以上)における、土壌中の放射性物質(主として放射性ストロンチウム)捕集技術の捕集性能を検証するため、実証試験を実施すること。

● 事業実施要件

【基本要件】

① 放射性物質の捕集効率

放射性物質(主として放射性ストロンチウム)の捕集効率が記載されていること。

② 設置場所の土壌環境に関する考え方

塩化物イオン濃度が、200ppm以上の環境下で効果を発揮する技術であることが記載されていること。

③ メンテナンスに関する考え方

メンテナンス頻度を低下させる工夫が記載されていること。

④ 二次廃棄物に関する考え方

二次廃棄物の発生抑制に関する考え方が記載されていること。

2. 土壌中放射性物質捕集技術検証事業(続き)

● 事業実施要件(続き)

【加点項目】

① 捕集効率

放射性物質の捕集効率について、性能の高い提案について、加点します。

② 捕集効果の持続性

捕集効果の持続性に関する考え方が示される提案については、その性能が良い(捕集効果の持続性が長い)提案について、加点します。

③ 二次廃棄物の発生抑制

二次廃棄物の発生量抑制について、その性能が良い(発生量が少ない)提案について、加点します。

④ 実験データの提示

基本条件又は加点項目について、実験データを持ってその実現性を示せる提案について、加点します。また、提示するデータが学会や学術誌等の査読を受けた形で公表されていれば、追加の加点をします。また、実験データの提示により、検証に必要な期間が短縮される提案について、追加の加点をします。

● 達成目標

契約期間内に、提案された基本条件及び加点項目に該当する項目の技術成立性、妥当性が検証できることを達成目標とします。

2. 土壌中放射性物質捕集技術検証事業(続き)

● 採点基準

【基本条件】

合計 20点

① 放射性物質の捕集効率

【5点】

- ✓放射性物質(主として放射性ストロンチウム)の捕集効率が記載されているか
- ✓放射性物質を捕集する仕組みについて、具体的な記載があるか

② 設置場所の土壌環境に関する考え方除去性能

【5点】

- ✓塩化物イオン濃度が、200ppm以上の環境下で効果を発揮する技術であることが記載されているか

③ メンテナンスに関する考え方

【5点】

- ✓メンテナンス頻度を低下させる工夫が具体的に記載されているか
- ✓一定の条件下(地下水の流速、塩化物イオン濃度等)における除去効果の持続期間が記載されているか
- ✓持続期間を裏付ける仕組みが具体的に記載されているか
- ✓メンテナンス方法や必要な人員数等について、具体的に記載されているか

④ 二次廃棄物に関する考え方

【5点】

- ✓二次廃棄物抑制の仕組みについて、具体的に記載されているか
- ✓二次廃棄物の回収方法が具体的に記載されているか
- ✓二次廃棄物の処理方法が具体的に記載されているか
- ✓二次廃棄物の保管方法が具体的に記載されているか(方法、容易性)

2. 土壌中放射性物質捕集技術検証事業(続き)

● 採点基準(続き)

【加点項目】

技術点合計 40点

① 捕集効率

【10点】

✓提案された技術の捕集効率が高いか

【7点】

✓捕集する放射性元素(放射能を持つ元素)の数が多いか

【3点】

② 捕集効果の持続性

【8点】

✓捕集効果の持続期間が長いか

【4点】

✓メンテナンスに必要な人員数が少ないか

【2点】

✓メンテナンス方法が容易か

【2点】

③ 二次廃棄物の発生抑制

【8点】

✓二次廃棄物の発生量が少ないか

【4点】

✓二次廃棄物の減容化が容易か

【2点】

✓二次廃棄物の回収方法が容易か(作業員の被ばくが少ないか)

【2点】

④ 実験データの提示

【14点】

✓比較サンプル(コントロールサンプル)の設定、データの統計的処理・評価等がなされた実験データであるか

【4点】

✓提示するデータが学会や学術誌等の査読を受けた形で公表されているか

【4点】

✓効果を裏付けるため、様々な角度から実験が行われ、データの分析がなされているか

【2点】

✓示されたデータに基づき、検証の期間の短縮が見込まれるか

【4点】

3. 汚染水貯蔵タンク除染技術検証事業

● 検証実施内容

解体作業における作業員の被ばくを低減する観点から、複雑な構造(詳細は、4. 参考情報を御覧ください)を有する、ボルト締め型タンクにおいて、内部に貯留する汚染水を排水し、解体する前の作業として行う除染作業について、除染性能を検証するため、必要となるモデルによる実証試験を実施すること。

● 事業実施要件

【基本要件】

① 除染性能

タンクの除染速度及び目標除染性能(タンク内面を最大10mSv/h(主にβ核種で、表面から5mmの距離で測定、β線による70μm線量当量)と仮定した場合の除染係数(Decontamination Factor、 $Df = \text{除染前線量} / \text{除染後線量}$)がどの程度か)が記載されていること。また、除染作業を行いながら、同時に除染効果の確認ができる仕組みが記載されていること。

② 廃棄物に関する考え方

液体廃棄物の発生を、可能な限りゼロにし、かつ、二次廃棄物の発生抑制や回収についての考え方が具体的に記載されていること。

③ 湾曲したタンク内面及び接続部への対応

タンク内面の湾曲した部分及び接続部の除染が可能な技術が記載されていること。

④ タンク群の内側にあるタンクへの対応

現状、福島第一原発にあるタンク群において、道路から離れたタンクが存在することから、当該タンクにおいても除染作業が行える技術が記載されていること。

3. 汚染水貯蔵タンク除染技術検証事業(続き)

● 事業実施要件(続き)

【加点項目】

① 除染性能

タンクの除染性能について、迅速に除染作業ができる提案について、加点します。また、除染性能が高い提案について、加点します。加えて、より狭いスペースで除染が可能となる技術の提案について、追加の加点をします。

② 廃棄物の発生抑制等

廃棄物の発生量抑制・回収について、その性能が良い(発生量が少ない・回収の問題が少ない)提案について、加点します。

③ 実験データの提示

基本条件又は加点項目について、実験データを持ってその実現性を示せる提案について、加点します。また、実験データの提示により、検証に必要な期間が短縮される提案について、追加の加点をします。

● 達成目標

契約期間内に、提案された基本条件及び加点項目に該当する項目の技術成立性、妥当性が検証できることを達成目標とします。

3. 汚染水貯蔵タンク除染技術検証事業(続き)

● 採点基準

【基本条件】

合計 20点

① 除染性能

【5点】

- ✓タンクの除染速度が記載されているか
- ✓タンクの目標除染性能(タンク内面を最大10mSv/h(主にβ核種で、表面から5mmの距離で測定、β線による70μm線量当量)と仮定した場合の、除染係数(Decontamination Factor、Df=除染前線量/除染後線量)がどの程度か)が記載されているか
- ✓除染作業を行いながら、同時に除染効果の確認ができる仕組みが記載されているか

② 廃棄物に関する考え方

【5点】

- ✓液体廃棄物の発生を、可能な限りゼロにする技術が記載されているか
- ✓二次廃棄物の発生抑制や回収についての考え方が具体的に記載されているか

③ 湾曲したタンク内面及び接続部への対応

【5点】

- ✓タンク内面の湾曲した部分及び接続部の除染が可能な技術が記載されているか

④ タンク群の内側にあるタンクへの対応

【5点】

- ✓道路から離れたタンクにおいても除染作業が行える技術が記載されているか

3. 汚染水貯蔵タンク除染技術検証事業(続き)

● 採点基準(続き)

【加点項目】

技術点合計 40点

① 除染性能

【26点】

✓除染性能が高いか

【7点】

✓提案された除染性能について、その除染速度が速いか

【7点】

✓作業に必要な人員数が少ないか

【5点】

✓除染作業や機器の交換作業に必要なスペースについて、必要なスペースが狭いか

【7点】

② 二次廃棄物の発生抑制

【8点】

✓廃棄物の発生量(重量及び容積)が少ないか

【4点】

✓廃棄物が回収できるか。できない場合、問題が生じないかが

【4点】

③ 実験データの提示

【6点】

✓効果を裏付けるため、様々な角度から実験が行われ、データの分析がなされているか

【2点】

✓示されたデータに基づき、検証の期間の短縮が見込まれるか

【4点】

4. 無人ボーリング技術検証事業

● 検証実施内容

福島第一原発内では、今後も種々の土木工事が必要不可欠であり、その基本部分であるボーリング工事については、従事する作業員の被ばく線量を低減し、安定的にボーリング作業に従事する人員を確保することが肝要である。このような考え方を踏まえ、ボーリング作業時における作業員の被ばくを低減させる観点から、高線量下でのボーリング性能を検証するため、実証試験を実施すること。

● 事業実施要件

【基本要件】

① 無人ボーリング技術の適用箇所

現場でのボーリング作業は、20～30cmの径で、最大50mの掘削ができることが求められている。この要求事項を実現する無人ボーリング技術であって、「放射線レベルの高い環境下における作業員の被ばく線量を低減するための省力化(部分的な遠隔操作等も含む)」を実現する技術内容が記載されていること。

② ボーリング性能の考え方

高線量下での作業時間が、どの程度、短縮が可能であるかが記載されていること。

4. 無人ボーリング技術検証事業(続き)

● 事業実施要件(続き)

【加点項目】

① 作業時間の短縮

ボーリングを行うに当たり、高線量下での作業時間を短縮できる提案について、加点します。

② 作業スペース

ボーリングを行うに当たり、必要な作業スペースが少ない提案について、加点します。

③ 質の高いボーリング

ボーリングを行うに当たり、質の高いボーリング(地質構造を崩さずにボーリングコアが得られるか、過度なロッドの消耗を抑制できるか等)が可能な提案について、加点します。

④ 実験データの提示

基本条件又は加点項目について、実験データによりその実現性を示せる提案について、加点します。また、当該実験データの提示により、検証に必要な期間の短縮が見込まれる提案について、追加の加点をします

● 達成目標

契約期間内に、提案された基本条件及び加点項目に該当する項目の技術成立性、妥当性が検証できることを達成目標とします。

4. 無人ボーリング技術検証事業(続き)

● 採点基準

【基本条件】

合計 10点

① 無人ボーリング技術の適用箇所

【5点】

✓20～30cmの径で、最大50mの掘削ができる技術が記載されているか

✓「放射線レベルの高い環境下における作業員の被ばく線量を低減するための省力化(部分的な遠隔操作等も含む)」を実現する技術内容が記載されているか

② ボーリング性能の考え方

【5点】

✓高線量下での作業時間の短縮が記載されているか

4. 無人ボーリング技術検証事業(続き)

● 採点基準(続き)

【加点項目】

技術点合計 50点

① 作業時間の短縮

✓通常のボーリング作業にかかる時間と比較して、高線量下での作業時間をどの程度、短縮できるか

✓ボーリング作業を行うにあたり、周辺環境に影響を与えないか

✓必要な作業員の数が少ないか

② 作業スペース

✓ボーリング作業を行うのに必要なスペースが少ないか

✓機器の設置が容易か

③ 質の高いボーリング

✓得られるボーリングコアの質が高いか

✓過度なロッドの消耗を抑制できるか

④ 実験データの提示

✓効果を裏付けるため、様々な角度から実験が行われ、データの分析がなされているか

✓示されたデータに基づき、検証の期間の短縮が可能な場合、その短縮幅が大きいか

【23点】

【10点】

【3点】

【10点】

【12点】

【10点】

【2点】

【9点】

【6点】

【3点】

【6点】

【2点】

【4点】

5. 加点の計算方法

加点の技術点の採点は、

A: 5/5 = 係数 1.0

B: 3/5 = 係数 0.6

C: 1/5 = 係数 0.2

D: 0/5 = 係数 0

の4段階評価とし、配点にこれらの係数をかけて得点を算出します。

例えば、「無人ボーリング技術検証事業」の「①作業時間の短縮」の項目で、

- ✓ 通常のボーリング作業にかかる時間と比較して、高線量下での作業時間をどの程度、短縮できるか 【10点】 → 評価A
- ✓ ボーリング作業を行うにあたり、周辺環境に影響を与えないか 【3点】 → 評価C
- ✓ 必要な作業員の数が少ないか 【10点】 → 評価B

という評価の場合、

$$10点 \times 1.0 + 3点 \times 0.2 + 10点 \times 0.6 = 16.6点$$

が、この項目の加点となります。

応募手順

1. 応募書類の様式
2. 応募書類の提出

1. 申請書の様式

- 次の三種類の様式から成ります。
 - 様式1 申請書
 - 様式2 企画提案書
 - 様式3 審査基準との対応
- Microsoft Word形式のひな型を、本公募のホームページからダウンロードできます。
- 申請書を記述する言語は、日本語または英語とします。

1. 申請書の様式(続き)

様式1 申請書

- 申請者
 - ✓ (筆頭となる)企業・団体名、
 - ✓ (企業・団体の)代表者役職・氏名
 - ✓ 所在地

- 連絡担当窓口
 - ✓ 氏名
 - ✓ 所属(部署名*)
 - ✓ 役職
 - ✓ 電話番号(代表か、直通かを明記)
 - ✓ E-mail アドレス
 - * 申請者と所属企業・団体が異なる場合は、企業・団体名も記載

- 企業・団体の代表者の印(またはサイン)が必要。

(様式1)

	受付番号 ※記載不要	
鹿戸・汚染水対策事業事務局あて 平成25年度補正予算「汚染水処理対策技術検証事業」 (〇〇事業：応募される事業名を記載してください) 申請書		
申請者	企業・団体名	
	代表者役職・氏名	印または署名
	所在地	
連絡担当窓口	氏名(ふりがな)	
	所属(部署名)	
	役職	
	電話番号 (代表・直通)	
	E-mail	

1. 申請書の様式(続き)

様式2 企画提案書

1. 事業目的、内容及び実施方法
 - ✓ 本事業の背景、事業目的
 - ✓ 成果を高めるための具体的提案
 - ✓ 各事業ごとに別紙1(1)~(4)に記載された基準で採点(基礎点及び加点)
2. 事業実施計画
 - ✓ 実施スケジュール
 - ✓ 具体的な実施手順
 - ✓ 具体的な目標＝マイルストーン設定
 - ✓ 四半期に一度の進捗報告
3. 事業実施体制
 - ✓ 実施体制図
 - ✓ 従事者の人数
 - ✓ 従事者の役割
 - ✓ 実施責任者、リーダーの略歴・専門分野、類似業務実績
 - ✓ 外注予定と内容

(様式2)

受付番号	
※記載不要	

平成25年度補正予算「汚染水処理対策技術検証事業」
(〇〇事業：応募される事業名を記載してください)
企画提案書

1. 事業目的、内容及び実施方法
<ul style="list-style-type: none"> * 本事業の背景についての認識、事業目的を記載してください。 * 本事業の成果を高めるための具体的な提案を記載してください。 * 公募要領の2. 事業内容の項目ごとに、別紙1(1)～別紙1(4)の記載内容に従って、具体的な実施方法及び内容を記載してください。 * 別紙1(1)～別紙1(4)に記載のある基本条件への適合性、加点項目への適合性について、それぞれ分かりやすく記載してください。その際、使用する技術のレベル(米国航空宇宙局が定める Technology Readiness Level (TRL) 等を参考にしてください：http://www.nasa.gov/content/technology-readiness-level/#.UyIYo0N_u3J)。
2. 事業実施計画
<ul style="list-style-type: none"> * 公募要領の2. 事業内容の項目ごとに、実施スケジュール(月別に分かること)を記載してください。 * 具体的な実施手順がわかるように記載してください。 * 実施目的を達成するための具体的な目標を、マイルストーンとして設定、記載してください。 * 事務局が開催する進捗報告会にて、四半期に一度程度の報告を行っていただくことがあります。
3. 事業実施体制
<ul style="list-style-type: none"> * 事業の実施体制図及び従事者の人数・役割を記載してください。 * 実施責任者及びプロジェクトリーダークラスの従事者の略歴、専門分野、類似事業担当実績を記載してください。 * 外注を予定しているのであればその内容。

1. 申請書の様式(続き)

様式2 企画提案書(続き)

4. 事業実績

- ✓ 組織としての類似事業実績
- ✓ 専従者の専門分野、類似事業実績

5. 経営基盤・管理体制

- ✓ 財務状況
- ✓ 資金管理体制

6. 事業費総額(千円)

- ✓ 人件費
- ✓ 事業費
 - ① 設計・製作・加工費
 - ② 消耗品費
 - ③ 旅費
 - ④ 謝金
 - ⑤ 外注費

- 一般管理費は計上できません。
- 再委託はできません。

4. 事業実績。
＊組織としての類似事業の実績を記載してください。記載には下記項目を含めてください。 ・事業名、事業概要、実施年度、発注者等（自主事業の場合はその旨）。 ＊本事業の主な専従者の専門分野、類似事業担当実績を記載してください。（3.と重複する従事者は除く）。
5. 経営基盤・管理体制。
＊本事業を円滑に遂行するために必要な経営基盤として、財務状況、及び資金等の十分な管理（支出に係る証拠書類等の整理や保管）体制（担当者と役割）を記載してください。
6. 事業費総額(千円)。
＊募集要領10.(1)経費の区分に応じて必要経費を記載すること。記載している事業費費目は例示。
I □人件費□。
II □事業費。
①□設計・製作・加工費。 ②□消耗品費。 ③□旅費。 ④□謝金。 ⑤□外注費□。
総額□□□□□□□□□□□□□□□□千円（※総額は補助額の上限内に収めてください）。
（注）各費目の金額は、消費税及び地方消費税相当額を差引いた金額としてください。

1. 申請書の様式(続き)

様式3 審査基準との対応

- 提案内容の【基本条件】と【加点項目】を記述する。

【基本条件】の記載例

①浄化システムの基本的な考え方

本提案の装置は、海中に装置全体を沈めて、連続的に海水の浄化を行うものである。

(海水を汲み上げない方法で放射性物質の浄化を行う技術であることが記載されているか → Yes)

【加点項目】の記載例

①除去効率

本装置の海水からのストロンチウム除去効率(DF)は8mg/Lのストロンチウム濃度の海水に対して室温で10であり、毎時1000Lの海水を処理できるので、毎時約7.2gのストロンチウムを回収できる。(提案された技術の時間当たりの除去量が高いか、の判断)

- 基本条件を一つでも満たしていない提案は採択されません。
- 基本条件を全て満たした提案のみ加点を計算します。

様式3(1)

【基本条件】

提案内容	配点 (基礎点)
①□浄化システムの基本的な考え方 ▶→ 海水を汲み上げない方法で放射性物質の浄化を行う技術であることが記載されているか。 ▶→ 放射性物質を除去する仕組みについて、具体的な記載があるか。	5
②□目標除去性能 ▶→ 元素毎の除去目標が示されているか。	5
③□メンテナンスに関する考え方 ▶→ メンテナンス頻度を低下させる工夫が具体的に記載されているか。 ▶→ 一定の条件下(潮の干潮条件、波の高さ、放射性物質の濃度等)における除去効果の持続期間が記載されているか。 ▶→ 持続期間を裏付ける仕組みが具体的に記載されているか。 ▶→ メンテナンス方法や必要な人員数等について、具体的に記載されているか。	5
④□二次廃棄物に関する考え方 ▶→ 二次廃棄物抑制の仕組みについて、具体的に記載されているか。 ▶→ 二次廃棄物の回収方法が具体的に記載されているか。 ▶→ 二次廃棄物の処理方法が具体的に記載されているか。 ▶→ 二次廃棄物の保管方法が具体的に記載されているか(方法、容易性)。	5

【加点項目】

提案内容	配点 (技術点)
①□除去効率 ▶→ 提案された技術の除去効率(除去に使用する素材当たりの除去量、時間当たりの除去量)が高いか。 ▶→ 除去する放射性元素(放射能を持つ元素)の数が多いか。	10 (うち7) (うち3)
②□除去効果の持続性 ▶→ 除去効果の持続期間が長いか。 ▶→ メンテナンスに必要な人員数が少ないか。 ▶→ メンテナンス方法が容易か。	8 (うち4) (うち2) (うち2)
③□二次廃棄物の発生抑制 ▶→ 二次廃棄物の発生量が少ないか。 ▶→ 二次廃棄物の減容化が容易か。 ▶→ 二次廃棄物の回収方法が容易か(作業員の被曝が少いか)。	8 (うち4) (うち2) (うち2)

2. 申請書の提出

■ 申請書の送付期限

2014年5月19日正午(日本時間 12:00)

■ 提出書類

- 様式1 申請者情報
- 様式2 企画提案書
- 様式3 審査基準との対応
- その他資料

上記以外に、企業団体概要、決算報告書及び収支計算書、定款又は寄付行為、を提出してください。

2. 申請書の提出(続き)

■ 申請書の提出方法

- 電子ファイル(推奨) **PDF形式**とし、一式をメール添付(70MB程度まで)、または、CD-ROM等で郵送または持込み。

または

- 紙文書 10部を事務局まで郵送または持込み。

(送付先)

〒100-0014 東京都千代田区永田町二丁目10-3
株式会社三菱総合研究所 廃炉・汚染水対策事業事務局
電話 03-6705-6041

電子ファイル送付先メールアドレス cw-apply@mri.co.jp

(質問等の申請書送付以外の目的には使用しないでください)

審査方法と審査基準

1. 審査方法
2. 審査基準

1. 審査方法

■ 審査は次の手順で行います。

1. 応募書類に基づき、事務局が書類審査を行います。
2. 事務局による書類審査の結果、応募書類に不備が無く、基本項目を満たす提案に関しては、有識者で構成される廃炉・汚染水対策事業審査委員会が確認した上で、書類審査における内容の優劣を決定いたします。
3. 書類審査の結果、内容の優れた提案については、廃炉・汚染水対策事業審査委員会においてプレゼンテーションを実施いただくこともあります。(提案締切後、日程をご案内します)。
4. プレゼンテーションに加えて、必要に応じてヒアリング及び現地調査を実施するほか、追加資料の提出を求めることがあります。
5. 書類審査、プレゼンテーション(実施した場合)、ヒアリング及び現地調査(実施した場合)の結果を総合的に判断して、採択する提案を決定します。

2. 審査基準

書類審査では、申請書の記載内容について、以下の審査基準に基づいて総合的な評価を行います。

① 事業計画内容の適切性、効率性

・補助要件に基づく適正な執行ができる計画となっているかを審査します。

➡ 採点基準に従って、様式3に記載された基本条件及び加点項目について採点・評価します。基本条件が満点でないとは採択されません。

② 補助金額の適切性

・経費の積算(見積内容)が合理的かつ明確であり、経済性を十分に考慮したものとなっているかを審査します。➡ 様式2「1. 事業目的、内容及び実施方法」、「2. 事業実施計画」及び様式3の内容と様式2、「6. 事業費総額」に基づき審査します。

③ 技術的能力(知見、能力)の有無 (本項目を満たしていないと採択されません)

・関連事業に関し過去に実績がある等、当該補助事業の遂行に必要な能力、知識、経験を有しているかを審査します。➡ 様式2「1. 事業目的、内容及び実施方法」、「2. 事業実施計画」、「3. 事業実施体制」、「4. 事業実績」及び様式3に基づき審査します。

④ 経営基盤・管理体制 (本項目を満たしていないと採択されません)

・当該補助事業を円滑に遂行するために必要な経営基盤を有し、資金等について十分な管理能力を有しているかを審査します。➡ 様式2「3. 事業実施体制」及び「5. 経営基盤・管理体制」に基づき審査します。

本資料に関するお問い合わせ先

株式会社 三菱総合研究所

廃炉・汚染水対策事業事務局

ファクシミリ: 03-5157-2145 (2014年4月18日まで)

03-3578-7025 (2014年4月21日以降)

電子メール: hiro-jimu@mri.co.jp



株式会社三菱総合研究所